

令和7年度第1回長野市放課後子ども総合プラン推進委員会
会議要旨

日 時 令和7年7月14日(月) 午前10時から午前11時30分まで
 場 所 第一庁舎7階 第一・二委員会室
 出席委員 中山委員長、古川副委員長、倉科委員、石田委員、服部委員、細井委員、
 宮澤委員、横山委員、窪田委員
 事務局出席者 島田こども未来部長、丸山こども未来部次長兼こども政策課長、
 牧野学校教育課長補佐、青木こども政策課長補佐、青沼こども政策課係長、
 前島こども政策課主査、小川こども政策課主事、内田指導主事、
 中山指導主事、小山職員
 傍 聴 者 山崎 裕子市議
 報道機関 2社(信濃毎日新聞社、長野市民新聞社)

発言者	内容
事務局	1 開会 令和7年4月就任の新委員の紹介も併せて実施
委員長 事務局	2 挨拶
	3 自己紹介 委員、事務局職員
事務局	4 議事 (1) 長野市放課後子ども総合プラン事業の実施状況等について 資料1により説明
委員	《質疑応答》 実施施設の中で民設施設とはどういうところか。
事務局	具体的には大橋児童クラブと稲田児童クラブ。それぞれ公設と同じようなサービスを提供している。
委員	受入校区の拡大について9ページの赤い文字になっている校区は希望する児童がすべて受け入れられるようになったということだが、これは施設が拡大したとか施設の改善があつてこうなったのか。
事務局	全体的なことと言うと長野市も子どもの数が減ってきている。利用を希望する方はパーセンテージ的には多くなつてはいるが、児童数が減ってきて、施設的には少し空きが出てきたり、余裕が出てきたりしているので、そんな中で工夫をしてもらいながら調整ができてきた。

<p>委員</p>	<p>ある学校で4年生の授業を観た時に、テストを全部ファイルしており、そこに評価の札みたいなものがついていて。その札はこのテストを保護者に見せたかどうかをチェックするものだった。</p> <p>私はそれを聞いて担任や校長先生は保護者に児童の様子をより細かく伝えるための1つの手段だとおっしゃるが、子どもはテストを見せる見せないまでも自分で判断できないのか、判断する余地がないのか、子どもの自主性は奪われているんじゃないかと思う。</p> <p>どちらかというと保護者や先生の都合によって行われているのではないかと思う。その例と関連してこの資料のように5年生、6年生の児童がプランの利用がすごく増えている。5年生、6年生になっても留守番ができないのか、そんなことでいいのかと思う。それはつまり家庭の教育力がなくなってきているのかと思う。</p> <p>先程部長が安全で安心な場所を確保するとおっしゃっていたが、確かに親にとってはそうだと思う。</p> <p>子どもの権利を守るともおっしゃっていたが、その点でこのプランで人数が増えているのはどう評価していいのかと思うがその点はどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>全般的な話をする。</p> <p>ずっとこのプラン関係に携わってきたが、昔に比べてやはり高学年の希望が多いという気がする。昔は1年生の需要が高いというイメージがあった。色々な社会情勢とか親の働き方の事とかあると思う。それは現場にいる皆さん感じていると思う。</p> <p>そういった中で必ずしも高学年を預かるのが悪いとは一概には言えない。社会性だったり、その友達と一緒に遊びたいとか。大きくなってくれば自分の考え方や自主性や趣味だったり自分の必要な部分がある。</p> <p>塾だったり色々な趣味、経験、スポーツだったりする子どももいれば、友達との関係で引き続きプランを利用することもあると思う。</p> <p>また親御さんの働く環境とか就労状況はどんどん拡大している傾向が全国的にもあると思うし、長野市でも同じような傾向がある。他の計画で色々なアンケート調査をしているが、特に母親のフルタイムや長時間勤務などの傾向がみられるのでそういう状況も合わさって高学年でも希望が増えてきている。</p> <p>先程の安全、安心も大事ですし、子どもたちの安全安心を守らなくてはいけないのは大人の役割であると思う。子どもたちだけでは限界があると思うし、そういう場の提供、選択肢として提供するのも大事だと思う。</p> <p>子ども自身もそういった環境の中で自分の意見とかも当然身につけてくることだと思うので、そういったことで大人も子どもも相乗効果が出てくると考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>ちょっと補足ですが冒頭で子どもの権利条例の話もさせていただい</p>

	<p>た。</p> <p>これは私の思うところですが、安全安心な場所は行政としてももちろん確保する。やはり今、ファーストプレイス、セカンドプレイス、サードプレイスと色々な場所で子どもたちが集える所をそろえておくのは必要だと思う。家庭の教育力というのは門外漢なのでおかせてもらう。</p> <p>おそらくこれからは僕は児童館なんかに行きたくないと言っても親は働いているから行かせたいが無理に行っても今度は居づらくなるような部分があるんじゃないかと思う。そういった時に大事なのはやっぱり話し合うこと。子どもと大人が対等な立場の権利条例ができていけば我々ももっとPRしていかなければいけないが、お父さんはこう、お母さんはこうだけど僕はこうなんだみたいなことをもっとフランクに話し合うような場がどんどんできていけば理想かなと個人的には思う。</p>
委員	<p>自分の子どもがプラザに通っている現状として実際は5年生、6年生は少ないと思う。登録の人数に対して来てる子はすごく少ないなと感じている。今、下校時間が昔より早くなっているんで、親としては家に帰って少しでも外で遊んでほしいとか、友達と遊んでほしいって気持ちは多いと思う。でも家に一人で帰るとゲームをしたり、YouTubeを見る。やっぱり親としてはどちらかというプラザに行きたい思いが多く、登録している方も多いんじゃないかを感じるし、夏休みだけの方もいるんじゃないかと思う。夏休みの登録もやっぱり一緒に、どうしても家にいるとゲームやYouTube時間が長くなってしまうので、実際に利用しているかはわからないですが、登録だけはしている方が多いんじゃないかと思う。</p>
委員	<p>現場サイドで言わせていただければ、確かに高学年になれば減りますが、施設を運営する立場として、やっぱり5年生でも6年生でも魅力ある施設づくりをしたいと思っている。子どもから、子ども同士での話を聞いてプラザへ行くとかこういう楽しいことがあるよというようになると、子ども自ら行きたいという声が出る。私はそういう施設づくりをしたいなと思っている。</p>
委員	<p>時代が結構変わってきて、家庭に対する支援を社会的にという流れがここ10年ぐらいあり、年齢が上がれば昔のように子ども同士で生活だとか遊んだりとかかなわない時代になってきている。親の心配もあるし、現実やっぱり情報がすごく入るようになったので色々ところで色々な事件があると、子どもたちだけで外で遊ばせるのは怖いという風潮になっているのは仕方がないかなというところ。</p> <p>気温の上昇とかもあり、なかなか外で昔のように遊べないという状況で子どもが集まれる場所があればそういう所に行ってくれると助かるっていうのがあった。一方で利用者が少なくなっていくのは、高学年が</p>

	<p>楽しめるような環境がまだ充実していないのは現実としてあると思う。もちろんできる限界はあると思うが。</p> <p>これからは高学年の利用も多分増えてくる。それは教育力が落ちたということとは別に一つの居場所としての役割が昔よりも増えてきた。そうしたところに対応していけるような施設づくりとか変化を進めていくというのは放課後が福祉政策の中でも割と遅れて進んでいるところがあり、これからそういうことをやっていかなきゃいけないというまさにそういう時がきているので、頂いたご意見なども参考にしながらより良くしていけばいいと思う。</p>
委員	<p>昔の話も出たんですが、高学年が下校後に色々なものに参加できる社会的な援助者が前までは結構いたが、今はなかなかそういう方がいない。例えば野球チームだと週に3回ぐらいやりますよっていう形でやっていたんですが、受け皿がなくなってきている。それでも子どもたちの過ごす場所も安全も確保したいし、本当に安心して過ごせる場所をつくってあげたいという思いでこの場所があるのかと思う。社会的な受け入れが減ってきているのも事実だと思う。</p>
	<p>委員</p> <p>家庭の教育力というところで、家の方が働いている人が増えたことで子どもに関わる時間が本当に少なくなってしまったと思う。私ももっと関わりたいが、食事を作らないといけないし、しなくちゃいけない事があり、YouTubeをちょっと見てと、そういうことに頼ってしまう。そうするとやっぱり子どもたちはそういうのが楽しいし興味がある。</p> <p>親の負担を減らし子どもたちと関わる時間を作ってあげるのもすごく大切なことだと思ったので昼食提供はすごくいいことだと思う。ご飯を作るっていうのが自分も子どもがいて負担だと思っている。結構時間がとられてしまう。</p> <p>今の社会、両親とも仕事をしなければならない状況で家族の中の大人が見れないという中、施設の先生や友だちと関わって遊ぶのはとても良いことなので、支援員さんやアドバイザーの活動など有意義なものになってほしいと思う。</p> <p>最近低学年の生徒さんに聞いた話ですが、アドバイザーの活動がすごくいいと言っていた。ただ、1年生で初めての放課後子ども教室の予約の取り方がわからなくて体験できなかったという話を聞いたので、分かりやすくやり方などの周知をしてもらい、色々な体験活動をしてほしい。</p>
事務局	<p>(2) 令和6年度長野市放課後子ども総合プラン事業に係る自己評価の結果について</p> <p>資料2により説明</p>

<p>委員</p>	<p>《質疑応答》</p> <p>各施設で補助員と支援員の割合がない。保護者の方にはどの先生も同じで、逆に言えばどの先生がどうっていうのは一切わからない。 %が違ふと施設からの回答も評価が変わると思う。出来るなら来年度からは公表してほしい。補助員がすごく多い施設か支援員が多いか。本当は同じなんですけど関わり方の責任感が違い、それを自分で評価することなのでそこが変わってくるんじゃないかと思う。評価が上がっているのはいいと思うし、補助員も支援員も同じ課題で向かっていることだと思うが、そういう心の持ちようは自分の中にある。すごく細かくなっちゃうので難しいことだとは思いますが、%も分かった上でじゃないととらえ方が漠然としすぎているんじゃないかと思う。</p> <p>7ページのところで『厳しく指導』というのは今のご時世でどんな感じが厳しく注意指導していただいたのかを教えていただけようであれば公表してほしい。</p> <p>10ページの配慮の関係ですが、現場はとても大変で難しい。どんな配慮に対しても現場は難しい。自己評価はすごくあると思うのでそこを評価していただければ。それが対保護者の方から見たらどうなのかかわからないので、アンケートはとったりされているとは思いますが、それが自分たちの仕事に関して評価されているのかどうか。逆に言えば評価しきれてないのか。逆のところも今後教えていただければありがたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>ちょっと全般的な話を最初にさせていただいて、現場の方のそれぞれの意見があればください。</p> <p>最初に自己評価の部分で、補助員の方と支援員の方それぞれの割合とかそういった部分の意識の持ち方とかでアンケートの部分が変わってくるんじゃないかということですが、現場と向き合う先生については子どもからしたら皆同じ先生なのでそこが違ふってことはあつてはいけないと思う。ただ働く側としてはやっぱりどこか違ふっていうのはあるかもしれない。ただ、そうは言っても内面の部分で補助的な先生でもそれなりに意識が高くてやりたい、子どもに向き合いたいという気持ちで接している先生も大勢いらっしゃる。なかなか人間の内面の部分っていうのは難しいと思うが、施設の中で意識しあつたり、色々な部分で支援が多くなつたり、それはまた年数がたてば変わってくるかもしれないし施設の子どもの数や状況も変わってくると思う。難しい部分であると思いますが皆で一生懸命考えて取り組んでいく部分であると思う。</p> <p>配慮の部分についてはそれぞれ施設の中で色々なお子さんとか色々な家庭もいらっしゃるんで、一概にはやっぱり難しいとは思いますが皆さん配慮して考慮する中で子どもたちにしっかりと向き合っていたいただければと思う。</p> <p>厳しいという保護者の方も寛容に感じる方、こう言っていたら</p>

事務局	<p>とを感じる方もいれば、言動の部分で少しでも保護者が納得いかない部分があれば検討も必要かと考える。難しい部分だと思うが守らなければいけない部分もある。</p> <p>補足ですが各施設から自己評価ということであがってきている。次長からも話があった通り厳しく指導＝（イコール）コンプライアンスにふれるというものではないと思うので、それぞれの施設からあがってきている状況の中から選ばせてもらったもので、そういったことを出してきた施設にはまた確認してみたい。</p> <p>また先程の各施設の支援員、補助員ですが、こちらにつきましては施設の自己評価ということですので館長を中心に支援員や補助員で話し合った結果の自己評価と考えているので、どのぐらいの意見が反映されているとかなかなか難しい部分があるかと思うので、また確認しながらより良く施設の自己評価がうまく反映されるように今後検討していきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>先程ご意見の中で保護者から見た評価も大事だとおっしゃっていただいた。毎年ながのこども財団でニーズ調査を行っており、対象学年は年度によって変わったりするが保護者のニーズを把握している。そして施設運営の方はご存じかと思うが、入口とかに何か困ったことや相談の連絡先を掲示して、施設の運営に関して相談できる窓口も設けていますので、そういったところで保護者さんの意見を拾いながらこの自己評価と合わせて乖離がないかチェックし、運営の改善に努めたい。</p>
委員	<p>アンケートですが、これから子どもの権利条例ができるということもありますので子どもにもアンケートを取ってほしいと思う。先程の、子どもは何が楽しいか、何だったらやりたいかというような、そんなアンケートでもいいんですが、施設内の事も親が知らないこともあり、知らないまま過ぎてしまっていることも多いと思うので。</p>
事務局	<p>実は権利条例を作るときもプラザやセンターに伺って色々な声を聴いている。子どもの声、特に低学年の声を直接聞くのはなかなか難しく、カードゲームなど遊びながら自然に引き出すように聴いた。どういうふうに、どこの部分を、また単純にいうとどんなおもちゃがほしいかというのが一つの意見だと思うんですが、やっぱり工夫していく必要があると思う。高学年は高学年で色々な聴き方があると思う。そういうのもふまえながら検討していきたい。</p>
委員	<p>例えばなんです、7ページの⑧に「児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には保護者と連絡を取り～」等書いてあり、最後には「児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。」と</p>

	<p>書いてあるが配慮しているかどうか。</p> <p>前にも話したと思うが、青木島小のプラザに行ったときに子どもがけがをしたり、病気になった時に安心して寝る場所すらない、施設にそういう場所すらないと心配していた。まずはそういう施設もあるかないかが大事であって、そこの方も配慮していることはしていると思う。一生懸命やっているんだから 100% 配慮していると思う。でも実際にできるかという施設の保証はこのアンケートではわからないと思う。だからそういう風にしたいとできない、必要なことは実際できるかできないかということと別だと思うんですが、その点はいかがか。</p>
事務局	<p>その配慮はどういう部分かというところ、実質的に各施設でどういう対応をしているかというところの話だと思う。色々な施設の形態があり、事務室があって、お子さんたちが遊ぶところがあって事務室を区切ったりして具合が悪くなったお子さんなどが折り畳みのベッドを広げて休んだり、比較的學校などの施設で狭いところなどは各施設ごとに工夫をしながら対応していると思う。施設を大きくするのは簡単にはできない話になるので、學校にもご理解いただき空き教室とか、教室の使い方、学年で人数も減ってきたりしますのでどこかエリアを少しの時間でも貸していただくとか少しずつ広げたりしている。</p> <p>児童館とか児童センターの場合はキャパ自体が決まっているのでその施設自体を広げることはなかなか難しい。子どもが減少すれば空間が空き、スペースも出てくると思うし、色々な状況の中で工夫する。保育園もそうですが、常にお子さんのベッドが必要かどうかもありますので事務室に置いて必要な時に使うとか冷房の効いた場所で休ませるなどの対応の中で次のステップになる感じだと思う。</p>
委員	<p>配慮している、考慮しているの質問もいいが、もう少し質問の仕方やか実際できるかできないかという項目を増やすとか変えていくとか何かそこら辺の部分の工夫とかは考えられないか。</p>
事務局	<p>これは子どもに向き合ったサービスについて当初、施設としてどういう対応ができたかという実際のその部分の評価になると思う。委員がおっしゃっている部分について、ハード的な部分も入ってくると思うのでここの中で評価を職員に移行していくにはちょっとなじまないのかと思う。その部分は別に施設管理をずっと見ている部分でもあるので、そういうところの議論とか確認の中で見ていきたいと思う。</p>
委員	<p>委員さんたちから出てきた意見というのは、このいわゆる自己評価を毎年出されて確認しているんですが、言ってみればほぼ 95 以上 100% に近い項目がほとんどで、これを毎年ここで出されて確認していくというのはあまり効率的ではない。来年も同じような結果がでてきて、1 個</p>

増えましたという確認していくというところでも、大体ここで書かれているような内容は方法として実現できていることはわかっているので、そういう意味では違う観点からの評価を出していただかないとこれを読み取っていけない。

なので例えば子どもからだったりとか社会の意見はどうなのか。要するに自己評価と他者評価って結構ギャップがあるのはどういう調査でも言われていて、それ以外の評価項目と照らし合わせて、じゃあどうしようかと議論できるほうが年に2回ぐらいしか集まらないと多分効率的だと思う。

それはアンケートの聞き方を変えてみるというのもまた一つ。こう聞いたらこれまでの聞き方と違っていて結果が変わってくるということも、今おっしゃられたように多分出てくると思う。なので100%、98%とか、ほぼできていることを毎年続けて、来月よりそこが50%になることは多分ないので、そういった工夫ができるかなというところ。

あと3ページの自己評価結果の掲載だったり、11ページのボランティアの掘り起こしといったところは例年60%ぐらい。これは60%で上がっていかないというところで、もしこのアンケートを使い続けるにしてもこのできてない施設はどうしてできないのかというところをこの場で伝えてもらわないと、何か議論のしようが無いというか毎年60%ですね、なかなか伸びないですねという話で終わってしまうので、できているところとできていないところはどういう理由の違いがあるのかはアンケートが出てきた時にもう少しピンポイントで話を聞いて、この場でもそれを伝えていただくとか、ボランティアの掘り起こしについても、その地域の実情によってなかなかボランティアがいなくてということでもこの結果が出てるとは思うが、どういう地域でボランティアを集めにくくなっているのか。逆に言うとどういう地域性だとボランティアの発掘ってそんなに困っていないとか。ここで話し合うのはその困っている地域にどういう形でそういったボランティアを供給していけたりとかアドバイザーを派遣していけるのか話し合うっていうのはこの推進委員会で多分求められていることだと思う。

これはもうずっと毎年やっている案件でこれを変えるということではできないと思うので、これをやっていく中で、もう少し毎年課題になっているところを少し掘り起こした情報を我々に提供してもらって、合わせて子どもへのアンケート。これは実はすごく難しいと思う。子どもに聞くと、その日の感情で書いちゃったりする。その日ちょっと怒られたら多分すごく評価を低くしたりとか出てくるので、それをもとに議論していくのは結構難しいと思うがただ少なくとも、その施設側の自己評価だけじゃなく、他の第三者が見た時の評価というものも改善していったり、これから良くしていくためにはその情報を照らし合わせて、これは支援とかやっている僕とかもそうなんですけど、こっちはやっているつもりなんだけど、それがうまく届いてないってことはあったりする。そうい

<p>事務局</p>	<p>ったところのずれとかでまたこういうふうなアプローチをしていったほうがいいんじゃないかとか、こういうふうなことを伝えていったほうがいいんじゃないかというような改善に繋がっていくことになると思うので、そういう意味で、自己評価と合わせてもう少し議論できるような情報を入れてくれるといいかと思う。</p> <p>今日出た意見はそういうことだと思うのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>今、ボランティアの掘り起こしが中山間地域は難しいとか実行自体が難しいとかいろいろな話が多分出てくる。それから掲載の部分についても事務局のほうではお願ひしてるんだけど、多分この部分では難しいということもある。もう少し詳しく提供させていただいたり、或いは私どものほうでももう少し課題として思っていることをざっくばらんに皆さんに議論していただくようにしていきたい。</p> <p>ながのこども財団もこれで2年目になりましたので、ベースの部分がこう見えてきたのかなという部分の中でのその上の議論というようなご提案というふうに受け止めさせていただいて、さらにその上の議論ができるよう工夫させていただきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>10 ページになるんですが、色々な特性のある子どもたちの受け入れというのがある。私は色々な子どもたちが色々な形でプラザに通って子どもたち、職員と関わりをもって生活していると思う。そういった中でその施設のコメントの一番上に書いていただいているんですが、学校との連携を図ることはとても大事なのかなと思う。</p> <p>生活の場がプラザだと学校と同じ環境の中にはいるんですけど、制限された生活の場になる。学校とはまた新たな形で環境の変化にとっても苦手意識を持っている子どもたちなので、ここに書いてある通り学校主催の支援会議とか子どもを理解するための会議に時間を見つけてプラザの先生方に出させていただいて、それがまたお互いに理解しようというところが大事になるのかなと思う。安心できる環境を整えるということも含めて、学校との協力関係がとても必要になるかと思う。</p> <p>昨年、令和6年度のながのこども財団の事業計画書を出していただいたがその中に私の孫が関係するところで大変恐縮なんですけど医療的ケアの利用希望者が4人と昨年の時点でお聞きしているんですが、今年は少し増えている状況なのか。その辺のところわかれば教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年度は三輪、川中島、古牧と夏休みの期間だけ東条で受け入れていた。今年度については皆さん学年があがってという中で、夏休みを利用して東条のお子さんは今年度利用されないという変更点だけで、あとの3施設はご利用いただいているという状況になっている。新たに増えたというところは今年度はない。</p>

委員	<p>学校のほうの関係で携わったことがあるのでお話しするんですが、非常に医療的ケアの必要な子どもたちが増えてきていて、看護師さんが今100名近くいるんでしょうか、それぞれ関りを持っていただいて、1人のお子さんに2人の看護師さんがついてようやく子どもたちが学校生活を営んでいるというところもある。そういう風に希望があれば受け入れてもらえればありがたいと思う。</p>
委員	<p>学校側との協力は、今お話しいただき、まさにその通りだと思う。ただ個人情報もありますのですべて開示という訳にはいかないと思いますが特に医ケアとかそういったところではこの放課後を守ってあげなければいけないところかなと思いますので、また今後とも交流、ご協力させていただけたらなと感じた。</p> <p>少し戻ってしまうかもしれませんが、先程も色々なところでお話が出ていましたが、子どもの対話ってやっぱり大事ななどお話を聞いていて思った。</p> <p>学校も下校が早くなったというお話もありましたが、それはまさに働き方改革ではあるんですけど、子どものための時間を増やしていきましょうということでも働き方改革をしている。特に先生方もお忙しい中ですが、子どもと対応していく時間をいかに増やしていくか、今もお家の方でも子どもと対話を増やしていこうというお話がありましたけれど、そんなところに地域のプラザとかセンターが緩和というのか中に入っていくことによって、私たちも親御さんも子どもと向き合う時間ができるんじゃないか。それが一番子どもが安心感を感じられる。どこにいても僕たちを見ていてくれる人がいる、僕たちの話を聞いてくれる人がいるっていうのが一番安心感を感じられるんじゃないかなと思って聞かせていただいていた。</p>
事務局	<p>本当に貴重な意見ありがとうございました。本当に細かいところからもっと大きなテーマから、大分ご意見いただいたと感じておりますのでまたこの委員会を通じて色々なご助言、アドバイスをいただきたいと思う。今日、2番目の項目で自己評価の話もさせていただいてますが、これもまた先程委員長からもお話がありました。どんなふうに今後改善していくか、それがきっと子どもたちのため、家庭、保護者のためになると思いますので、そういう観点でしっかりとまた進めて参りますのでご協力のほどお願いしたい。</p>
事務局	5 その他
委員	<p>学校との連携会議っていうのは全然計画されていないのか。教頭先生も校長先生も変わってしまったのでまた1から作り直さなければいけない。政策課としてはどう考えているか。</p>

事務局	各施設ごとで状況が違うかと思うのですが、その支援会議等、開催が必要ということであれば我々職員も同席していくとか、指導主事の先生も同席して開催することもあるかと思う。場合によってということだと思うが、こちらで計画をしてといったところは特にはないと思うので、必要があればこちらにお話をいただいて、調整をしていくことも可能かなと思う。
	6 閉会